

# 薬剤科

## 小森勝也

薬剤科では、当センターの運営方針に基づき、8項目（薬剤管理指導業務の強化、業務システムの効率的運用、材料費の縮減、がん化学療法システムの効率的運用、チーム医療への積極的関与、医療安全への貢献・診療の質の向上、専門薬剤師の育成・研修受入体制の推進、薬学生長期実務実習受入体制の確立）を基軸として、各種業務を実践している。また、実践業務においては医療安全の確保と経済性効率を勘案しつつ、医師、看護師、その他、多くの職種の方々の協力を得ながら主体的に薬物療法に参加することで、医薬品の適正使用推進に向けて日々努力している。

### 1. 薬剤管理指導業務・病棟薬剤業務

薬剤管理指導業務は救命救急センターを含めた全病棟を対象に行っており、各主任をヘッドとしたチームに副主任を配置することで一層の業務効率化を図っている。(1594件/月)

全入院患者の持参薬情報は電子カルテに入力し、医師へ情報提供を行っている。

常駐薬剤師による一般注射薬無菌混合調製は、薬剤師が患者個々の検査データ、薬剤溶解時の安定性・配合変化チェック、回診カンファレンスにおける情報収集（投与中止、重複処方、投与量の変更確認、開始時間の確認）をもとに病棟クリーンベンチ内で実施している。(3,728本/月)

### 2. 抗癌剤・IVH製剤の無菌調製

良質な医薬品の供給を目的に、薬剤科注射薬室の無菌室において一元的に、クリーンベンチ・安全キャビネットを用いた無菌混合調製を実施している。

抗癌剤に関しては平成14年7月に外来化学療法室が開設され、全診療科の外来患者を対象に月間約1250本の無菌調製を行っている。また入院患者に対しては、17年度より取り組みを始めており、平成22年度は月間約500本の調製を行っている。また、がん薬物療法委員会において承認されたプロトコルを対象に、薬剤科でプロトコルチェックを行い、安全管理の徹底を図っている。

### 3. 医薬品情報管理（収集・評価・提供）

医薬品は、医薬品の使用者である患者の有効性・安全性を確保するために、適正に使用されなければならない。情報化社会の現在、医療の中で取り扱う情報は、正確かつ適正に管理される必要がある。薬剤科では医薬品情報の適正な管理と供給を行うために専任スタッフを配置し、厚生労働省への副作用報告も積極的に行っている。(30件/年)

### 4. 治験業務

適正な治験実施については、国際的な評価に値する臨床データの作成が求められており、厚生労働省としても新GCPに基づく治験の実施について指導を強化しているところである。当薬剤科にあっても治験支援業務を行う専任薬剤師CRC（治験主任薬剤師1名、薬剤師1名）を配置している。

### 5. HIV感染症患者への服薬支援の強化

HIV感染症患者に対しては、担当薬剤師3名（専従2名、併任1名）を配置することで円滑な服薬支援体制を構築している。また、感染症科外来に隣接した「お薬の相談室」を新たに設置し、薬剤師が常駐することで患者動線の改善、医師・看護師との緊密な連携が強化でき、より多くの長期患者に対してのフォローが実践できている。(207件/月)。

## 6. 専門薬剤師の育成・研修受入体制の推進

日本病院薬剤会 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修施設、日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設の認定を受けており、前者においては4名の研修生を受け入れた。また、薬学部6年制に伴う薬学生長期実務実習生は16名を受け入れている。

### 【2010年度研究発表業績】

#### A-3

吉野宗宏、矢倉裕輝、桑原 健：後天性免疫不全症候群、薬局 2010年3月増刊号 病気と薬パーフェクトブック 2010、P824-830

島本裕子、上野和行：閉塞性動脈硬化症、薬局 2010年3月増刊号 病気と薬パーフェクトブック 2010、P318-322

島本裕子、上野和行：感染性心内膜炎、薬局 2010年3月増刊号 病気と薬パーフェクトブック 2010、P285-289

吉野宗宏：HIV 感染症患者に対する薬剤師外来の取り組み、薬事 2010 Vol.52 P53-57

吉野宗宏：HIV 感染症治療と薬剤師の関わり、医薬の門 49 巻 6 号(2010) P50-52

槇原克也：がんチーム医療へのアプローチ、Oncology Epoch No.11 Spring'10 P29

槇原克也：Information がん 個別化を目指したがん薬物治療の可能性、月刊薬事 2010 Vol.52 No.6 P103

兵頭一之介、三嶋秀行、松山和代、仁科智裕、森ひろみ、石倉久嗣、組橋由記：XELOX 療法の副作用「血管痛」はこうして乗り切ろう！！、がんサポート 2010 Vol.91 P64-71

中蔵伊知郎、関本裕美、山下大輔、堀部明美、中村慶、岡田博、小原延章、佐田誠、鎌倉史郎：両室ペーシング機能付き植込み型徐細動器リード感染を抗菌化学療法のみで治療可能であった1症例、医療薬学、36 巻 7 号 (2010) p.502-508

本田芳久、関本裕美、田中由香、河合実、大津幸、石塚正行、福西慶一、弓木野良子：兵庫中央病院における医薬品管理システムを利用した破損医薬品の経済性と安全性についての検討、医療、64 巻 9 号(2010) p.572-577

関本裕美、中蔵伊知郎、山下大輔、小原延章、本田芳久、小森勝也、加藤壮介、桂木真司、池田智明：生体肝移植後の妊娠・出産におけるタクロリムスの投与設計、医療、64 巻 9 号(2010) p.609-614

本田芳久、関本裕美、河合実、大津幸、石塚正行、福西慶一、定満、佐々木秀樹：病棟における適

正な医薬品管理のための支援システムの導入による効果、日本病院薬剤師会雑誌、46 巻 11 号 (2010) p.1517-1520

榎原克也、太田実希、上野裕和、濱一郎：外来化学療法における有効性・安全性確保のための薬剤師による処方介入の効果、医療薬学、第 36 巻 12 号(2010)

松山和代、三嶋秀行、上野裕之、梶原絹代、森岡亜希子、森本茂文、山内一恭、本田芳久、小森勝也、辻仲利政：Oxaliplatin 末梢投与における血管痛の原因と対策、癌と化学療法、第 38 巻第 3 号 2011 年 3 月

#### A-6

島田志美：NST における薬剤師の取り組み、月刊薬事 2010.4 vol.52 No.4 P121(585)

#### B-3

北川智子：治験のプロセスをいかに医療情報に反映させるべきか？ーグローバル監査を経験して考えたことー、第 10 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2010 in 別府、大分、2010 年 10 月

吉野宗宏：知ると知らぬで大違い！長期内服で押さえておきたいポイント、第 24 回 日本エイズ学会学術集会・総会 ランチョンセミナー、東京、2010 年 11 月

#### B-4

松山和代、森本茂文、里見絵理子、井上敦介、上田純子、梶原絹代、山内一恭、本田芳久、北村良雄、辻仲利政、小森勝也：固形癌骨転移に対するゾレドロン酸の投与間隔に関する検討、第 15 回 日本緩和医療学会学術大会、東京、2010 年 6 月

榎原克也、中西陽一、加藤泰史、橋本佳代子、甲斐千亜紀、鎌田道彦、竹越和美、天野真憂、中村忠弘、三宅由行、伊勢康子、井村敏子、森北裕美子：がん性疼痛治療における高用量エトドラクの安全性評価、第 15 回日本緩和医療学会学術大会、東京、2010 年 6 月

太田実希、榎原克也、上野裕和、濱一郎：外来化学療法における薬剤管理指導と薬学的ケアの実際、医療薬学フォーラム 2010、広島、2010 年 7 月

島本裕子、上野和行、福本恭子、富成伸次郎、谷口智宏、小森勝也、白阪琢磨：心不全患者におけるバンコマイシンクリアランスと左室駆出率の関係、第 27 回日本 TDM 学会・学術大会、札幌、2010 年 6 月

矢倉裕輝、吉野宗宏、小川吉彦、坂東裕基、矢嶋敬史郎、笠井大介、谷口智宏、富成伸次郎、渡邊大、西田恭治、山内一恭、本田芳久、上平朝子、小森勝也、白阪琢磨、栗原健：Fosamprenavir と Ritonavir のトラフ濃度に対する食事の影響、第 27 回日本 TDM 学会・学術集会、札幌、2010 年 7 月

植原克也、中西陽一、加藤泰：高用量エトドラクを用いたがん性疼痛治療における安全性の検討、第4回日本緩和医療薬学会年会、鹿児島、2010年9月

関本裕美、小森勝也、嘉田晃子、宮本恵宏、鎌倉史郎：アミオダロン誘発性甲状腺機能低下症の発症頻度とその治療、第15回アミオダロン研究会、東京、2010年9月

島本裕子：TDMに積極的に関わるために、日本TDM学会第33回セミナー、和歌山、2010年9月

松山和代：XELOX療法における血管痛対策、大阪、2010年10月

吉野宗宏、矢倉裕輝、榎田宏幸、栗原健、米本仁史、板東裕基、小川吉彦、矢嶋敬史郎、谷口智宏、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨、Tenofovir 中止後の腎機能の回復に関する検討、第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

吉野宗宏、矢倉裕輝、榎田宏幸、栗原健、米本仁史、板東裕基、小川吉彦、矢嶋敬史郎、谷口智宏、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨、当院におけるラルテグラビルの使用成績、第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

矢倉裕輝、榎田宏幸、吉野宗宏、栗原健、米本仁史、小川吉彦、坂東裕基、矢嶋敬史郎、笠井大介、谷口智宏、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：ST合剤の先発、後発医薬品の品質評価および過敏症の発現頻度に関する比較検討、第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

矢倉裕輝、榎田宏幸、吉野宗宏、米本仁史、小川吉彦、坂東裕基、矢嶋敬史郎、笠井大介、谷口智宏、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨、栗原健：Darunavirの1日1回投与法におけるトラフ濃度と副作用に関する検討、第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

関本裕美、河合実、吉野宗宏、早川直樹、上野裕之、坂本泰一、齋藤誠、山内一恭、本田芳久、小森勝也：薬剤管理指導電磁的記録の充実に向けて、第20回日本医療薬学会年会、千葉、2010年11月

上野裕之、早川直樹、河合実、吉野宗宏、坂本泰一、齋藤誠、関本裕美、山内一恭、本田芳久、小森勝也：がん薬物療法委員会における薬剤師の役割について、第20回日本医療薬学会年会、千葉、2010年11月

早川直樹、河合実、吉野宗宏、上野裕之、坂本泰一、齋藤誠、関本裕美、山内一恭、本田芳久、小森勝也：大阪医療センターにおける長期実務実習受け入れ体制の現状と問題点、第20回日本医療薬学会年会、千葉、2010年11月

吉野宗宏、矢倉裕輝、櫛田宏幸、河合実、早川直樹、上野裕之、坂本泰一、齋藤誠、関本裕美、山内一恭、本田芳久、小森勝也、白阪琢磨：HIV 感染症患者に対する 薬剤師外来の取り組み、第 20 回日本医療薬学会年会、千葉、2010 年 11 月

河合 実、櫛田宏幸、矢倉裕輝、吉野宗宏、早川直樹、上野裕之、坂本泰一、齋藤誠、関本裕美、山内一恭、本田芳久、小森勝也：大阪医療センターにおける抗 HIV 薬一包化調剤の取り組み、第 20 回日本医療薬学会年会、幕張 2010 年 11 月

植原克也、太田実希、中山美智恵、上野裕和、濱一郎：ゲムシタピン塩酸塩の dose intensity 低下に影響を及ぼす因子～個別化治療を目指した探索的研究～、第 20 回日本医療薬学会年会、千葉、2010 年 11 月

矢倉裕輝、赤崎晶子、金子恵子、柴田麻由、寺岡麗子、北河修治、櫛田宏幸、吉野宗宏、山内一恭、本田芳久、小森勝也、上平朝子、白阪琢磨、栗原健：Efavirenz 製剤における剤形間の溶出挙動に関する比較検討、第 20 回日本医療薬学会年会、千葉、2010 年 11 月

松山和代、上野裕之、梶原絹代、山内一恭、本田芳久、増田慎三、森本茂文、北村良雄、小森勝也：FEC100 療法における好中球減少症への対応について、第 20 回日本医療薬学会年会、幕張、2010 年 11 月

小西大輔、井上敦介、上野裕之、山内一恭、本田芳久、小森勝也：当院におけるペメトレキシドの使用状況とその検討、第 64 回国立病院総合医学会、福岡、2010 年 11 月

坂本泰一、森下典子、石山薫、小野恭子、木島かおり、北川智子、柚本育世、樋口早映子、多和昭雄、楠岡英雄、是恒之宏：IRB での安全性情報の審議改善への取り組み、第 31 回日本臨床薬理学会年会、京都、2010 年 12 月

島田志美、上野裕之、庄野裕志、梶原絹代、森岡亜希子、関本裕美、山内一恭、本田芳久、辻仲利政、小森勝也：外来化学療法患者の栄養評価における影響因子の検討、第 26 回日本静脈経腸栄養学会、名古屋、2011 年 2 月

## **B-5**

吉野宗宏：大阪医療センターにおける HIV 診療 一薬剤の使い方を中心に、第 3 回保険薬局 HIV ミーティング、大阪、2010 年 6 月

吉野宗宏：HIV 検査から治療薬まで、2010 京都北部アボットフェア、舞鶴、2010 年 7 月

吉野宗宏：抗 HIV 薬処方箋を応需するにあたって、セガミメデックス調剤部第二調剤薬局長会議、大阪、2010 年 7 月

吉野宗宏：抗 HIV 薬について、患者会主催勉強会、大阪、2010 年 8 月

吉野宗宏：今さらきけない HIV/AIDS－保険薬局薬剤師への期待－、南薬剤師会保険薬局部会、大阪、2010 年 9 月

吉野宗宏：抗 HIV 療法－最近の動向、大阪抗 HIV 薬服薬指導勉強会、大阪、2010 年 10 月

吉野宗宏：薬剤師の役割と服薬指導、平成 22 年度エイズ看護プロジェクト看護師研修、大阪、2010 年 10 月

吉野宗宏：HIV 感染症における薬剤師の役割－悪性腫瘍症例へのアプローチ、東北ブロック HIV 感染症薬剤師研修会、仙台、2010 年 10 月

吉野宗宏：長期 HAART の現状と課題、NPO 法人ネットワーク医療と人権、仙台、2010 年 10 月

吉野宗宏：抗 HIV 薬 服薬指導の実際、平成 22 年度エイズ看護プロジェクト看護師研修、大阪、2010 年 11 月

吉野宗宏：長期 HAART の現状と課題、大阪 HIV 訴訟原告団、大阪、2011 年 1 月

吉野宗宏：チーム医療の実際、平成 22 年度エイズ看護プロジェクト看護師研修、大阪、2011 年 1 月

吉野宗宏：薬剤師の役割と服薬指導、平成 22 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2011 年 2 月

吉野宗宏：HIV 診療における薬剤師の役割、第 14 回新潟 HIV カンファレンス、新潟、2011 年 2 月

吉野宗宏：HIV 感染症治療における薬剤師の役割、第 6 回三重 HIV 感染症講演会、三重、2011 年 2 月

## **B-6**

中山美智恵、太田実希、榎原克也、上野裕和、濱一郎：外来化学療法における薬剤管理指導の実際、第 21 回日本病院薬剤師会北陸ブロック学術大会、金沢、2010 年 11 月

田中景子、松山和代、河合実、山内一恭、本田芳久、小森勝也：当院におけるボルテゾミブの末梢神経障害について、第 32 回日本病院薬剤師会近畿学術大会、神戸、2011 年 1 月